

# 適正な学校(学年)規模の下限 について【校長会 意見】

# 単学級の良さについて 【小学校校長会意見】

## 子ども視点

- ①子どもたちの人間関係が良好な場合、安心な環境で過ごすことができる。
- ②学習面、生活面両面で、自分の考えや自己表現がしやすく、進めやすい。
- ③学校行事などで、個別の活動や活躍の機会を設定しやすい。
- ④児童相互の人間関係が深まりやすい。異学年交流での人間関係の深まりも期待できる。

## 運営面

- ①施設や設備の利用がしやすい。
- ②学校行事等で個に応じた関わりや表現などが工夫できる。
- ③校外行事など、コンパクトな動きができ、急な変更にも対応しやすい。
- ④教職員が全校生を把握でき、児童と教職員の関係性がとりやすい。

# 単学級の懸念事項について 【小学校校長会意見】

## 子ども視点

- ①6年間クラス替えがなく、環境を変えることができない。
- ②少人数のため、多様な考え方やかかわりが確保できない。
- ③固定化された人間関係からは考えの広がりが少なく、成長につながりにくい。
- ④切磋琢磨しようとする意欲が少なくなる。競い合う場面が少なくなる。
- ⑤中学校進学時に環境の変化が大きい。

## 運用面

- ①教員数が少ないため、学校行事で制約が生じる可能性が高い。
- ②教員数が少なく、専科の先生を配置することができない。
- ③教員一人当たりの校務分掌の担当が増える。そのため、出張も増加する。
- ④担任一人で学年すべてのことをする必要があり、負担が大きい。
- ⑤担任一人の主観で児童を指導するため、複数での対応と比べ、対応を誤るリスクがある。
- ⑥教員も多様な考え方に触れることができない。

# 学年3学級以下の良さについて 【中学校校長会意見】

## 子ども視点

- ①同学年の子どものことをお互いが把握しやすく、学年全体で関係性が深くなる。
- ②学年を超えて、関わる機会が多い。
- ③学年の教員だけでなく、他学年の教員との関わる機会が多い。

## 運用面

- ①情報共有がしやすく、学年を越えた学校全体での見守りができる。
- ②体育館や特別教室の使用制約が少ないので、時間割を柔軟に組むことができる。
- ③修学旅行や野外活動のような校外行事での制約が少ない。

※小学校と同様の意見は除いています

# 学年3学級以下の懸念事項について 【中学校校長会意見】

## 子ども視点

- ①行事の規模が小さくなる。
- ②コミュニケーション能力、表現力が育みにくい。

## 運用面

- ①教職員が少ないため、バランスのとれた教員の配置がしにくい。
- ②出張時に教員が不在となった時の影響が大きく、出張に出づらい。
- ③授業を1人で受け持つ学年が多くなるため、テストを作成する量が多くなる。
- ④3学級以下になると、免許外の教科を担当する必要が生じる。

※小学校と同様の意見は除いています

# 適正な学校(学年)規模の上限 について【校長会 意見】

# 4学級以上の良さについて 【小学校校長会意見】

## 子ども視点

- ①多様な考えに触れることができる。
- ②友達関係に悩んだ時も、他のクラスの友達と交流することができ、個性に応じた人間関係が構築できる。
- ③毎年のクラス替えで、新しい気持ちで新学期が迎えられ、気の合う友達を見つけやすい。
- ④切磋琢磨する中で、リーダー的な児童が育ちやすい。

## 運用面

- ①学級編成にいろいろなパターン等の幅が出るので、クラス替えが考えやすい。
- ②定数に基づき、配置される教員数が確保できるため、負担が適度に分担される。
- ③学年で相談して行事を進めることができる。学年担任制や教科担任制等の組織的な工夫ができる。
- ④学年で意見や知恵を出し合いながら運営できるため、充実した教育活動を実施しやすい。
- ⑤経験の浅い教員が、ベテラン教員から学ぶことができる。

# 4学級以上の懸念事項について 【小学校校長会意見】

## 子ども視点

- ①自分を表現する機会が減る。(行事や児童会活動など)人数が多いため、代表になりにくい。
- ②子ども同士の学年全員との関わりは希薄になる。
- ③一人当たりの使える施設が小規模校と比べて限られる。遊びにも制限が生じる。
- ④新年度、クラス替えで元のクラスと同じ子が少ないため、不安になり、落ち着かない。

## 運用面

- ①教師一人当たりの学年全員とのかかわりの薄さと、把握の難しさ。
- ②打合せ時間に時間を要し、共通認識の上で意思統一して実施することが難しくなる。
- ③音楽会等、全校で実施する学校行事の会場のスペースにゆとりがない。
- ④校外学習等、移動する人数が多いため、場所をおさえるのが大変である。



# 7学級以上の良さについて 【中学校校長会意見】

## 子ども視点

- ①多くの出会いがある。行事面で活気が出る。
- ②現在の人間関係で解決できないことに直面した時も、選択肢が広がりやすい。
- ③多くの出会いがあり、コミュニケーション能力を高めることができる機会が多い。

## 運用面

- ①数多い教員の目で子どもを見ることができる。
- ②教員不在の場合も影響が少ないため、研修など、教員の学びの機会が増やせる。
- ③校内で教職員の学び合いの機会ができやすい。

※小学校と同様の意見は除いています

# 7学級以上の懸念事項について 【中学校校長会意見】

## 子ども視点

- ①一人ひとりの個別の対応がしにくい。
- ②行事での一人当たりの活動量が少ない。

## 運用面

- ①教職員同士の連携が図りづらい。
- ②学校施設の利用に制限ができる。

※小学校と同様の意見は除いています

適正な学校(学年)規模について  
【校長会 意見】

# 小学校校長会意見 《学校(学年)規模》

## 望ましい学校(学年)規模について

- ①学校の校務分掌が適度に分担でき、教科担任制や学年担任制などの教育課程上の工夫も可能な規模。
- ②学年の中で複数の教員を配置できる規模。
- ③子どもたちが他のクラスの取り組みを見て成長できたり、クラス替えをして新たな人間関係を築くことができる規模。
- ④学年全体で児童一人ひとりとじっくりと向き合うことができ、教職員の意思疎通もしっかりと図ることができる規模。



2～3学級

# 中学校校長会意見 《学校(学年)規模》

## 望ましい学校(学年)規模について

- ①クラス替えができる規模。
- ②生徒、教職員にとってもゆとりがあり、学び合い、協働がしやすい規模。
- ③多様な人間と関わり合う機会があり、生徒が専門性の高い学びを享受できる規模。
- ④教育活動のしやすさ、教科指導等、学級や学年の生徒を把握する上で望ましい規模。
- ⑤5教科の教員が各学年に一人ずつ配置され、校務分掌の学年での分担も可能な規模。



4～6学級